

1. 日程: 2026 年 1 月 12 日 (月曜日)
2. 参加者: 杉澤、前田
3. 行動: 保田駅 08:30 ⇒ 湯沢 BS 10:15 ⇒ 郡界尾根 11:00 ⇒ 林道分岐 12:25 ⇒ 内台十字路南 13:35 ⇒ 保田見峠南 14:00 ⇒ 嵯峨山 15:00 ⇒ スイセンピーク 15:20 ⇒ 下貫沢出合 16:00 ⇒ 小保田 BS 16:20 ⇒ 保田駅 17:15
4. 山行報告

のどけし春の田舎道。地元の人たちが大事に思って暮らしているように感じられる。梅や水仙、特に水仙は山の中腹の「あんな所まで」という斜面にも植えられている。春が深まる道沿いに、こんどは菜の花か。畑のあちらこちらに広がるのだろう。その頃も来よう。いくつものバス停をかぞえ佐久間ダムの分岐を過ぎる頃、バスよりも早く着いたことに気づいた。横根峠が近い。そのへんから山に入ろうとして歩いてきた。どの辺だろう。



嵯峨山とはあまり耳にしない山の名だ。里山など低山は、地形が複雑で見通しもきかないこ

とが多い。もちろん指導標もなければ標識のテープもない。ようは道として作られていないということだ。地図読みとしては上級のレベルか。

地図を確認しながら郡界尾根へのとりつき点はどのあたりか、尾根末端を見極めにかかった。登山道はないので、どこかの民家の脇道を行くのだろう。尾根に出られそうなところを探してしばらくウロウロしたあげく、入っていけそうな所をみつけた。



この写真の家の手前、納屋の裏手にその「道でもなければ藪でもない」ところがあった。草地の先は尾根に続いているようだ。

とりつきの枯れ藪をむりやり登ると、やがて明るい日差しが郡界尾根に出た。富津市と鋸南町の境を示す境界杭が私たちを待っていた。

この尾根は津森山から東に延びて横根峠で県道をまたぎ、嵯峨山、白狐峠、鋸山を経て東京湾につながっている。今日は横根峠を起点とする。

笹、タラノキ、バラをかき分けながらの小尾根の分岐で間違い、引き返しては進むこと小一時間。戻って北に進むとしばらくして林道に出た。林道は舗装されている。水仙の群落があって微風が心地よい。歩きやすくなった道を機嫌良く行くと、だんだん下り坂になってきた。・・・まだ下る「変だなあ・・・」と思い地図を確認して間違いに気づいた。気を取り直して引き返した。戻って見つけたのが写真の小尾根である。倒木をまたぎ藪をかき分けて保田見峠南にさしかかったのは 14:00 だった。明るいうちに駅に着くのは怪しくなってきたので、嵯峨山から最短コースで下ろうと相談した。



杉澤さんと意見一致したが「はて」嵯峨山から伸びている尾根はどれか、はっきりしないが、地図で見当をつけた尾根に脇から這い上がっていった。



北東尾根を見つけて嵯峨山にたどり着いたのは 15:00 だった。ここまでとし白狐峠は次の機会とする。

標識もピンクテープもきっぱりと無いこのルート。またまた下りの尾根を見過ごして、いつの間にか水仙ピークを越えていた。引き返し面倒になって下貫沢コースに変更した。この小保田峠の下降点もわかりにくい。行きつ戻りつして、現れた踏み跡をたどって下った。出合には 16:00 着。バス停 16:20 着。もちろんバス便は無い。

それでも保田駅には足下の明るいうちに着くことができた。

電車を待つ間、駅の向かいにある、営業しているか、いないかよくわからない店に頼んで中に入れてもらった。

ストーブの上の鍋につけた燗酒の腹にしみ通る旨さは忘れがたいものだった。

1月18日（日）城山・幕山巡り山行報告

参加者：吉田、加賀屋、石井、高橋、森田、瀧口、堀江（OG）

集合：湯河原駅改札前 8：30

行程：湯河原駅 8:25⇒城山 10:30⇒椿台 11:00⇒しとどの窟分岐 11:45⇒登山道入口 12:15⇒幕山公園 12:50⇒幕山 14:00⇒幕山公園 15:20(バス)—湯河原駅 15:40

快晴、無風、絶好の登山日和。3人不参加となり7人で出発。登り坂の中腹の民家で早速、産直のミカンを購入。中玉7個で200円。行動中に食べれるかなとも思いつつ、早々と目的達成。

堀江さんが樹木に詳しく、城山に着くまで、カイズカイブキ（貝塚息吹）、ヤシヤブシ、センダン、ヒメシヤラなど教えて頂いた。特にセンダンの実は、鳥は食べられるが、犬にとっては非常に有毒で、子犬だと数粒で中毒死するそう。また、ヤシヤブシの実は、生花に使われると吉田さん。お二人のおかげで色々勉強になり、大変ためになった。



城山山頂は、日曜だというのに他の登山者はいなかった。素晴らしい海の景観を7人締め。大島、初島が光る海に浮かんでいた。真鶴半島も。大満足して次の椿台へ。多少のアップダウンはあるがゆるやかな下りだ。椿台には廃墟になりかかっている白い建物がある。トイレが使えたのでほっとした。

トンネルをくぐり、しとどの窟へ下る。ここは頼朝が身を隠したとされる洞窟。「しとど」とは鳥の名前で、追手が迫った時に洞窟から「しとど」が飛び出して、頼朝が難を逃れたという伝説がある。

しとどの窟のコンクリートの細道と別れ、普通の山道をガンガン降りて幕山の麓へ出る。するとそこに法被を着た植木職人の方が道を整備していた。なんと市の職員ではなく、一般の方で、自費で植木を購入して整備していると言う。その場所で急に倒れて命拾いをしたそうで、山の神に感謝してのお礼だそうだ。小石を敷き詰めたり灯籠をおいたり、心がこもっているのが感じられた。命の尊さにも感動して神妙な気持ちになる。



梅林はほんの一部の早咲きの梅が色をなしていた。5厘咲き位。きれいだった。満開は2月かな。早咲きの梅にメジロやヤマガラが来て賑やかだった。少しヴァードウォッチングもできた。



幕山の登りはゆっくり登り、苦しくないペースを心がけた。まだかな、まだかなとジグザグに登っていき、やっと草原の頂上に着いた。真鶴半島が見えた。15分ほど休んで、同じルートを下った。

幕山公園バス停の前に来ると、丁度 15：20 の湯河原駅行きがあったので、皆と相談してバスで帰ることにした。海を見ながら穏やかな枯木の山を楽しめた山行だった。

（記録：高橋 写真：石井、高橋）